

1 自己評価及び外部評価結果

(※外部評価はユニット別ではなく事業所全体のものです)

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3092100019		
法人名	株式会社さくらメディカル		
事業所名	グループホーム松風みはま	【ユニット名:さくら】	
所在地	和歌山県日高郡美浜町和田824-9		
自己評価作成日	平成24年7月13日	評価結果市町村受理日	平成24年8月29日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> <li>・理念に沿った介護が出来るように日々努めています。</li> <li>・笑顔が引き出せるような介護を心がけています。</li> </ul>
--

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3092100019&amp;SCD=320&amp;PCD=30">http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3092100019&amp;SCD=320&amp;PCD=30</a>
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>田園風景の広がる静かな環境の中にある2階建のホームである。1階にはサービスが併設されている。「何事にも自然体で行こう、無理強いする事なくゆったり、のびのびと行こう」という基本姿勢がとられており、入居者の中に自然に溶けこんでいる職員のやさしい笑顔や入居者同士が楽しそうに会話する姿がみられる。入居者も食事作りに加わり、調理ができない人もテーブル拭きなどを行い、職員と会話しながら一緒に食事を楽しんでいる様子がみられる。職員が意見を言いやすい環境が整えられ資格取得にも積極的であるなど、ケアの向上に向け前向きな姿勢を持っている。</p>
---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人和歌山県認知症支援協会
所在地	和歌山市四番丁52 ハラダビル2F
訪問調査日	平成24年7月24日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

(※外部評価はユニット別ではなく事業所全体のものです)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念を基にユニットで「ゆったり楽しくみんなでいこか」という理念を作り、職員全員で理解し共有することを介護目標としてより良いケアに向けて取り組んでいます。	各ユニット毎に親しみやすい理念を作成し、居間に手作りの木製文字で掲げている。職員の自覚を高められるよう、ケア会議の記入用紙の上部にも理念が示されている。	事業所理念を軸とし、それぞれ個人の目標を作成するなどの取り組みで、より一層ケアの向上につながることを期待する。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	各地域の方にボランティアでお越しいただいたり、近隣の保育園の行事や各町の敬老会等へ参加させていただき交流を図っています。	隣にある同法人主催の陶芸教室に参加し、居室の名札や飾りものなど作成している。近隣の保育所の敬老会にも招待され参加し、又近隣の人からグループホームについての相談を受けることもある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入居者家族や近隣に、認知症の人の理解をしていただけるような研修会を考えております。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を2ヶ月に1回実施し、会議で出た意見や要望をまとめ、職員間で共有し、サービスに反映しています。	町の担当者、地域代表、家族代表も参加し、出された意見には積極的に取り組み、ケアに反映されている。家族の参加メンバーは固定されている。	他の家族も参加できる方法を摸索し、家族会の機能も含めて会議が活用されることを期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	各市町村の担当者に入居者や事業所の現状又は問題点を連絡、相談しています。	法人の統括部長が相談、連絡など絶えず行っている。町からのアドバイスも受けながら良い協力関係が構築されている。大事な事は即事業所に連絡が入っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年間研修計画に議題を組み込み、職員が十分に理解出来るよう取り組んでいます。また、契約時に身体拘束をしない旨を説明し同意を得ています。	身体拘束をしないケアに取り組み、出入り口のセンサーの使用をやめて見守りを強化し、出ようとする入居者がいれば止めないで一緒に歩くようにしている。言葉の拘束も行わないように気をつけているが、業務が重なった時には言葉で制止する場合もある。	知らないうちに言葉で拘束してしまっていないか、心理的圧迫感を与えていないかなど職員間で話し合い、より一層認識を深めて実践していくことを期待する。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についても年間研修計画に組み込んでいます。虐待の早期発見や見過ごすことがないように、日々のケアの中で身体状態に異常がないかを観察しています。		

【事業所名】グループホーム松風みはま ユニット名:さくら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	市町村の担当者に権利擁護、成年後見制度に関する研修をしていただき、職員の理解が深まるよう努めています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書、重要事項説明書等の説明を行い、本人様や家族様に不明な点がないか確認し、十分に説明し納得していただいてから同意を得るようにしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者、家族様ともに日頃からコミュニケーションを大切にし関係作りに努めています。日頃言えないことを聞き取れるようにアンケート調査も計画しています。	コミュニケーションを大切にしており、家族から直接意見や要望を聞く事が多い。不定期にアンケート調査を実施しており、今年度も予定している。記入された内容を検討し、運営、ケアに反映できるよう取り組んでいる。	直接言いにくい要望や意見などを表すことができるよう、内容を工夫したアンケートを定期的に行い、よりよい形で運営に生かせることを期待する。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のユニット会議及び日々の業務の中での意見等を聞き、ユニットへ反映できるよう努めています。	職員用の意見箱を設置し、ユニット会議も多くの職員が参加できる時間を選び、職員の意見を聞けるよう配慮している。業務改善など、日常のなかで直接意見が出る事が多く、その都度検討し、迅速に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各職員に応じた役割分担をし報告や評価をこまめに行い、役割や努力に応じた福利厚生制度を設けています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格取得に際して勤務調整を行ったり、実践者研修や管理者研修への参加を推進し資金援助を行い、職員の知識向上に取り組んでいます。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣の事業所の方と互いに行き来し交流を図っています。また、本社の理学療法士の方に介護職員に向けた研修会を計画し他事業所の方にも参加を募っています。		

【事業所名】グループホーム松風みはま ユニット名:さくら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に本人様と面談を行い、困っている事や不安に思っていることに耳を傾け、求めていることを受け止め本人の安心を確保できるよう努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談から入居までの間に不安な事や要望等を聞きだせるようコミュニケーションを図っています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居、相談の際には本人様、家族様のニーズを見極め、適切なサービスを提供できるよう努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様を尊重、尊敬し、普段の生活の中で多くのことを学び、互いに支えあう気持ちで接するよう努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人様の誕生日会に家族様を招いて一緒に祝ったり、普段の生活の中で協力を得ながら本人様を支えていけるよう努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会者が来られた時にゆっくりと過ごして頂けるよう心がけています。また、馴染みの場所へ出掛けたりしています。	友人や家族、近所の人との訪問の際には、一緒にゆっくり過ごせるよう配慮している。馴染みの理髪店に行くことや自宅に泊まる事など、家族の協力も得ながら、今までの関係が途切れてしまわないよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	生活の中で入居者様同士がコミュニケーションを図りやすいように必要に応じて職員が間に入り、同じ空間を共有できるよう努めています。また、隣にある潮風ひだかとも互いに行き来し交流をしています。		

【事業所名】グループホーム松風みはま ユニット名:さくら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も入居者様に会いに行ったり、家族様の相談等にも対応しています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人様と十分にコミュニケーションを図り信頼関係の中で想いが聞き取れるよう努めています。	普段の自然な流れの関わりの中で思いを知るように努め、個人ファイルの日々の記録とセンター方式を活用して職員間で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人様や家族様から今までの生活歴や環境等の情報を聞き取り、本人様や家族様の意向を生活の中で実現できるよう努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人様を取り囲む方々から情報収集し、趣味や趣向を生活に反映し、メリハリのある生活が継続できるよう努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人様、家族様の意向や意見を取り入れ計画書を作成し、本人様の状態の変化に柔軟に対応出来るよう随時ケアカンファレンスを行なっています。	新入居者には、入居前の状態を把握するための情報も考慮した上で、24時間生活変化シートを入居後1週間記録して、その中から課題をケア会議で検討し、具体的な分かりやすい計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録を基に申し送り時に職員間で情報を共有しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	自宅や行きたい場所へ職員や家族様と出掛けたり、病院受診の援助を行っています。		

【事業所名】グループホーム松風みはま ユニット名:さくら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアの方々にお越しいたゞき、残存機能を活用及び楽しみが持てるよう協力を得ています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人様、家族様が希望される主治医に依頼し、定期的な訪問診療や受診を実施しております。	希望するかかりつけ医を主としている。2週間に1回の訪問診療や予約受診を実施し、事務所に予約受診表を貼り職員で共有している。受診には職員、または家族が付き添っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員と看護職員が日々の情報を共有し、主治医と連携し健康管理に努めています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には定期的に面会し、医療スタッフと情報交換を行い連携を図っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に終末期対応の指針を説明していますが、身体状況の変化により、その時点で出来ること出来ないことを家族様や主治医と連絡を密にとり対応しています。	看取り看護の指針が作成されており、入居時、急変時にも書面を用いて説明している。協力医、看護師、管理者、現場のリーダーが連携を取りながら家族と相談して対応している。最近看取りがあり、今後も対応していく予定である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	日高広域消防本部の協力で応急手当を学習する機会を設けております。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	日高広域消防本部の協力で火災時の避難訓練を定期的に行っております。また水害時には近隣住民の方と互いに協力し合えるよう働きかけています。	関係機関と連携を取りながら年に2回火災時の避難訓練を行っており、日頃交流のある近隣住民との協力関係も築けている。地震、津波などの避難は建物の2階となっている。	災害時はホームが拠点となる事も視野に入れて、地域に発信して行くことを期待する。

【事業所名】グループホーム松風みはま ユニット名:さくら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーの保護は周知徹底し、対応については一人ひとりを尊重した声かけを実践しています。また、本人様や家族様等に了解を得て、親しみを込めて呼びなれた名前で呼ばせていただくこともあります。	一人ひとりを尊重し、肩を張らない自然な態度で接している。呼ばれ慣れた名前で呼ぶと笑顔で返事が返ってくる入居者には、プライドを損ねないよう配慮したうえで家族の了解を得て呼ぶこともある。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中で洗濯や調理、畑仕事等入居者様がしたいことが出来る時間を多く取り入れています。入浴、食事も本人様の希望する時間帯やペースに合わせています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	普段より入居者様の希望を聞き、個別のペースを心がけ、一人ひとりの嗜好をサービスに組み込んでいけるよう努めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	女性の方にはお化粧の支援をしたり、男性の方には髭の手入れをしたり等、本人様の望む身だしなみができるよう努めています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様の嗜好を聞き献立に取り入れています。料理が好きな方には積極的に参加していただき楽しみの一つとして支援しています。	入居者も調理に加わったり、テーブルを拭いたりしている。和気あいあいとした雰囲気職員と会話しながら一緒に食事をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	バランスよく様々な食材を使用したメニューを献立に組み込み、栄養バランスが偏らないよう努めています。また、水分や食事量を職員全員が把握できるよう毎回チェックし記録しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝、昼、夕に口腔ケアを実施しております。また、外出後にはうがいを促しています。		

【事業所名】グループホーム松風みはま ユニット名:さくら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者様の排泄時の残存能力を見極め、排泄パターンを把握しパターンに沿った誘導を行い、自立した排泄支援を行えるよう努めています。	夜間オムツを使用している人も昼間は布パンツやリハビリパンツを使用している。排泄パターンを把握し、その人に合った対応をしている。できるだけオムツを使わずに排泄出来るよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	1日1800ccを目標とし水分摂取を促し、体を動かすレクリエーション等を取り入れています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	本人様が希望される時間に入浴が実施できるよう支援しています。	曜日、時間を決めず、希望する時に入浴している。基本的に毎日が入浴日である。3日以上拒否される入居者にはさりげない関わりの中で部分清拭や足浴なども実施している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間あまり眠られない方にはお茶を勧めたり、会話をして落ち着いて過ごしていただけるよう支援しています。 また、休息も本人様の意思決定にて自由にしていただいております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬状況一覧表を作成し職員一人ひとりが内容を理解し間違いのないよう管理に努めています。また、薬に関して異常があれば薬剤師や主治医に相談しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	調理や洗濯等の家事への参加、趣味や畑仕事等思い思いの時間を過ごされています。嗜好品に関しては主治医、家族の了解の基お酒やおやつ等も楽しんでいただいております。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ホーム周辺を散歩したり一時的な帰宅、ドライブ等を楽しめるよう、日々入居者様の健康状態に配慮し支援を行っております。また、季節ごとに花見やピクニック等を実施し季節感を感じていただけるよう支援しています。冠婚葬祭にも家族様の協力の基出かけております。	朝夕の涼しい時にホーム周辺を職員と一緒に散歩している。ドライブ、花見、買い物支援など入居者の状態に配慮し無理のない範囲で行っている。隣接する施設を訪問して一緒にお茶を楽しむ機会を作っている。	

【事業所名】グループホーム松風みはま ユニット名:さくら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族様の了解のもと少額の小遣いを本人が所持管理し、買い物時には本人様の欲しい物が買えるよう支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	定期的に家族様や知人の方と電話で話が出来るよう支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングや居室内に温度計を設置し室温には常に注意しています。周りの田んぼや敷地内に植えた桜の木で季節感を感じていただけようとしております。 また、入居者様の状況に応じてテーブルやイスの配置を変えております。	室温には気をつけて温度計を設置している。上部のカーテンなど細かい所にも気配りが感じられる。窓から田園風景も見られ入居者同士の会話や笑顔が見られる。居心地のよい関係でいられるようにテーブルや椅子の配置も考えられている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースの畳で横になられたり、一人で落ち着ける場所の確保のために、数か所にイスを配置しております。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人様の使い慣れた家具や家族様の写真等を持参していただき、少しでも落ち着いて生活できるよう工夫しております。	家庭の延長の雰囲気家具や写真が飾られている居室もあれば、最低必要品のみの居室もあるなど本人の意向に添った自由な部屋という雰囲気である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	移動や入浴、排泄等の日常生活の中で本人様の残存機能が十分活かされるよう配慮し介助しております。		